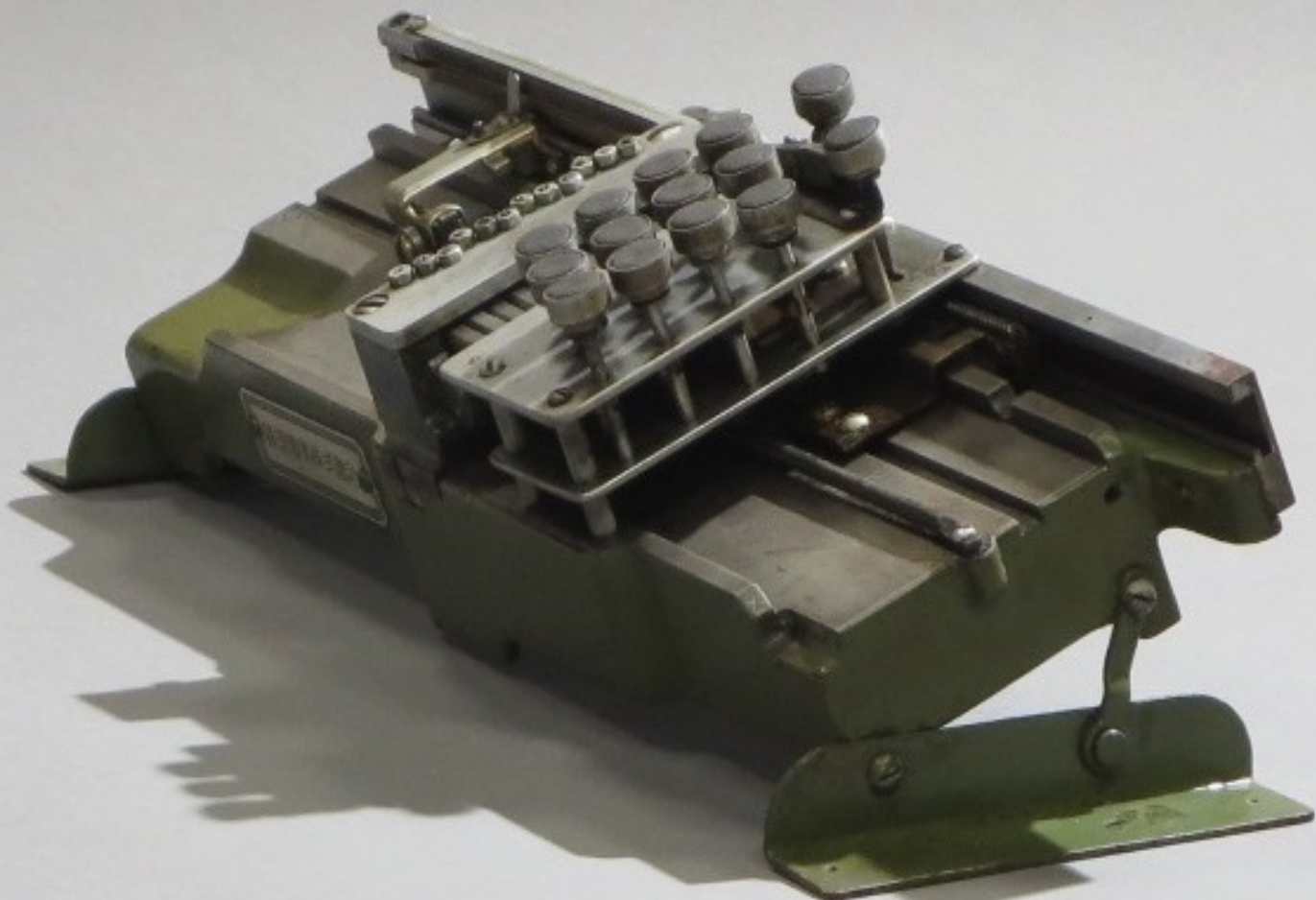


経営機械化展示室

神戸大学 経済経営研究所

情報処理学会認定・分散コンピュータ博物館



大変貴重な歴史遺産

左の写真にある緑色の事務機械は、戦時中に神戸商大（現神戸大学）の平井泰太郎教授の指導の下、試作された分類機「鐘淵実業製」である。現存する国産分類機では唯一のもので、二〇一三年度に情報処理学会「分散コンピュータ博物館」に当展示室が選ばれた際、その目玉となったマシンである。

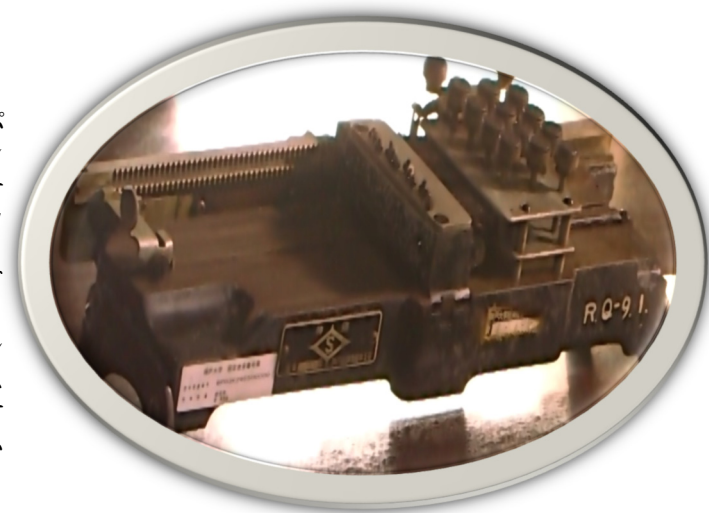
平井教授は、戦前から経営に事務機械を取り入れるべきだと考えていた。そのため、一九四一年五月に日本ワットソン統計会計機械会社（現日本IBM）よりパンチカード・システム一式を無償提供してもらい、神戸商大に経営機械化の研究・教育を目指した経営計算研究室を立ち上げた。

一九四一年一二月に太平洋戦争が勃発すると、日本ワットソンは敵国資産会社の指定を受け、資産凍結されたため、在日社員は行き場を失ったが、彼らに手を差し伸べ、いち早く国産化に着手したのが平井教授だった。その後、彼らは鐘淵実業で秘密裏に行われていた事務機械の国産化にも協力しながら、四二年末までに分類機を完成させた。その貴重なマシンが現在、経営機械化展示室で公開されている。

この展示室には、平井教授らが国産化の手法にした欧米の事務機械、戦時中に開発した貴重な国産機、そして戦後の国産コンピュータが展示されており、日本の情報処理機器の歩みが一望できる大変貴重なコレクションとなっている。



鐘淵実業製分類機



神戸製鋼所製穿孔機

パンチカード・システム
「パンチカード・システム」と言われる事務機械は、戦後に電子式のコンピュータが登場するまで、企業や政府のデータ処理業務の花形マシンであった。

これは米国のハーマン・ホレリスという若きエンジニアが一八九〇年の米国国勢調査のために開発したマシンが端緒となっている。彼は一八九六年にタビュレーティング・マシン社を設立、商用化に乗り出す。同社は一九一一年にいくつかの会社と統合されCTR社となり、一九二四年にIBM社と社名変更され、世界の情報処理ビジネスを席巻していくことになる。

この事務機械が「システム」と呼ばれる所以は、カードに穴をあけてデータを入力するための装置である「穿孔機」（写真右下）、入力したカードを目的別に捌く「分類機」（写真左上）、それら分類されたデータを集計し、印字する「製表機」といった三種の機械が、三位一体となって一つのデータ処理を行うからである。

経営機械化展示室には、戦時中に外国機を模して試作された鐘淵実業製の貴重な分類機と、戦後に作られたIBM社の分類機が並置されており、その異同を楽しむことができる。

＊備考 見学は予約制です

連絡先

神戸大学経済経営研究所 総務係

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1

電話番号 078-803-7270